

編集後記

本年はいよいよ平成が終わり新しい元号が始まります。これから数年は従来の常識が常識ではなくなり、新しい常識で判断することが増え、おそらく日本国民にとっても私たち眼科医にとっても激動の時代になる予感がしています。ただ、そうはいっても私たち眼科医は常に新しい眼科の知識を蓄積し、どんな時代になっても患者のニーズに対応できるよう不断の努力を続けねばなりません。『眼科』誌はそのお役に立てる雑誌です。

さて、今月号の特集は富田剛司先生企画の「緑内障診断のための OCT 読影」です。今や OCT は眼科医の緑内障診療にとって自動視野計と並んで不可欠のものとなりつつあります。特に標準的な Humphrey 視野計の中心 30° のプログラムでは正常にしか見えない前視野緑内障に関しては、OCT でなければ検出や記録が残せません。この特集では従来から広く行われてきた乳頭周囲網膜神経線維層や黄斑部内層厚の評価だけでなく、強度近視眼や篩状板のみかた、OCT angiography

の活用法についても解説が行われています。

綜説のひとつは網膜静脈閉塞症の交叉部をやはり OCT で細かく観察し、これまで説明されてきた RVO 発症メカニズムの常識とは全く異なる見解に至ったものです。もうひとつの綜説は Hubel & Wiesel のネコにおける受容野を用いた解析の時代から、遺伝子改変が可能なマウスによるモデル実験の時代へと変わったことによって、視覚の臨界期の常識が変わっていることを解説したものです。両方ともよくまとめられていて私たちの常識を update してくれます。さらに網膜橋渡し研究アップデートでも、臼井嘉彦先生に網膜以外の分子標的薬として、ぶどう膜炎に対するインフリキシマブやアダリムマブなどの TNF α 阻害薬以外の分子標的薬の紹介をいただいています。

どこからでも今月号をお読みいただければ、平成以降の眼科学の常識の変化を実感できるはずです。

(三村 治・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼 科」 第 61 巻 第 1 号 1 月号

2019 年 1 月 5 日発行（毎月 1 回 5 日発行）
定価（本体 2,800 円＋税）

年間講読料金 定価（本体 42,100 円＋税）
〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088, FAX：03-5244-5089, e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。